

5. 奨励賞活動報告

1) 厚生労働大臣奨励賞

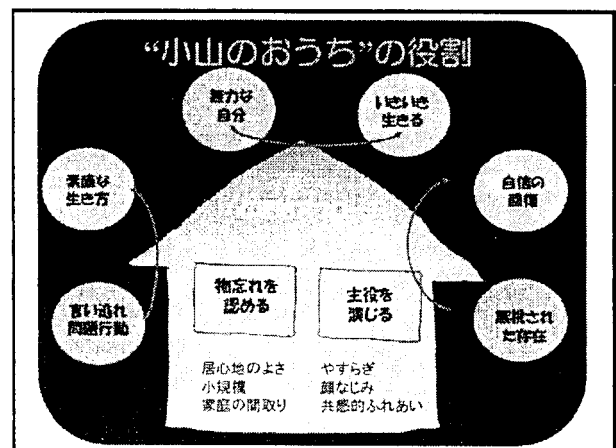
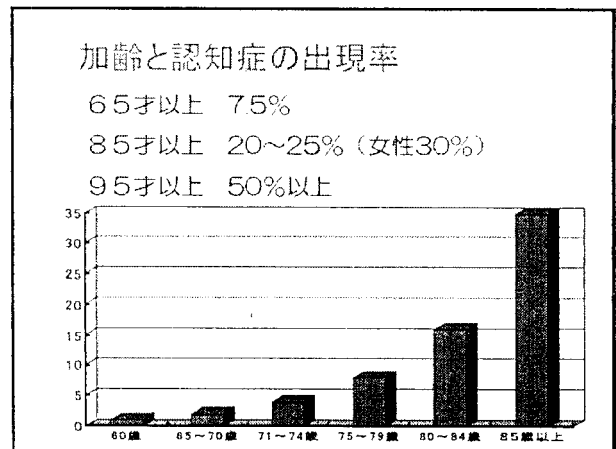
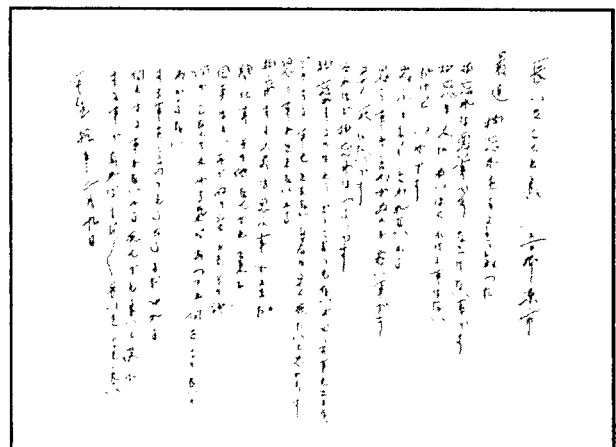
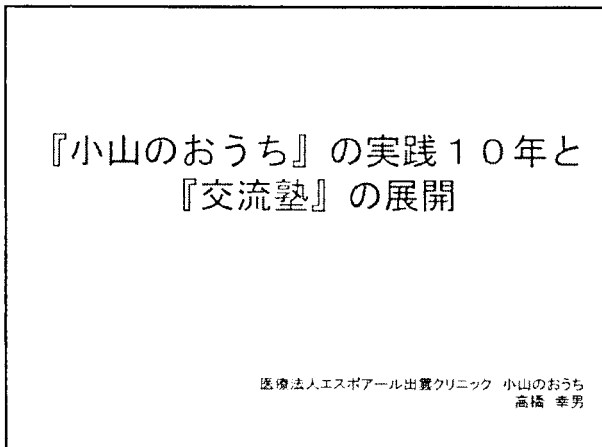
『小山のおうち』の実践 10 年と『交流塾』の展開

医療法人エスポール出雲クリニック 重度認知症老人デイケア 小山のおうち(島根県出雲市)

施設長 高橋幸男

[入賞理由]

認知症の人自身の思いを大切にされた関係者の長年にわたる継続的な取り組みが大きな成果をあげている。保健・医療・福祉の分野や官民を超えた地域の幅広い活動が展開されており、認知症の人と家族を町ぐるみで支えていく貴重な取り組みの実践モデルである。学校にも出かけ、子どもたちにも働きかけようとしている点も世代を超えた認知症の理解と支援を広げていく上で将来的な可能性が大きい。



2) 認知症介護研究・研修センター奨励賞

「若年・軽度認知症専用自立型デイサービス『もの忘れカフェ』からみえてきたもの」

医療法人藤本クリニック デイサービスセンター(滋賀県守山市)

デイサービスセンター所長 奥村典子

【入賞理由】

認知症のご本人が病気と向き合い、受け容れながら、認知症になりながらも自分の人生をあきらめずに生きていくことを支援するというあり方は、今後の認知症ケアのあり方の基本として高く評価できる。特に、ケア者側が用意したプログラムにあわせるのではなく、認知症になっても自分たちのやることは自分たちで決め、仲間とともに自分たちの過ごす時間の在り方を豊かに作り出していくことは、無気力にならずに自主性や各自の暮らし方を保ちながら生きていく上で最も必要な支援であると考えられる。デイケアという施設内だけにとどまるのではなく、町に出かけ、町の人たちの理解や関わりを生み出していく活動のあり方は、今後の重要なモデルである。

**若年・軽度認知症専用自立型デイサービス
「もの忘れカフェ」からみえてきたもの**

医療法人 藤本クリニックデイサービスセンター(滋賀県)

奥村典子・佐治千恵子・高橋祐二・奥田靖子・伏木久代・野口洋子・村上勝俊
上田橋・遠藤淑子・江崎栄子・桑島幸代・田中敬・川島千枝・竹内みゆき・藤本直規

写真の提示についてはすべてご了承ください

藤本クリニックデイサービスセンター概要

参加者の方が喜んでいます。(ユニット1)

《開院当時のデイサービス》
スタッフが用意したプログラム
緊張した表情、できる・できないが目立つ

↓

固定的なプログラムをなくす取り組みスタート
参加者のその日の様子を見て、することを決める
(平成12年5月～)

↓

いやなことはいなくていい
よく笑い、それぞれが自分らしく過ごし始めた

《取り組み後の特徴》
集団の規模、雰囲気など異なる2ユニット
固定的なプログラムがなく、個別性重視

委実施～要介護5 若年者～高齢者まで
登録者数は100名前後(月平均)

自分たちのやりたいことをやります。
府県大会の真剣勝負です。(ユニット2)

「もの忘れカフェ」を始めるきっかけとなった

(奥村典子(左)・佐治千恵子(右)の対談)

「病気だと思います。試練ですね」

「本当の気持ちを話せるところがない。同じ悩みを持っている人はいますか？」

「仕事がだめならボランティアをやりたい」

「役割が欲しい。人の役に立ちたい」

「家族に申し訳ない。迷惑ばかりかけられない。何かをしたい」

「もの忘れカフェ」の約束事

《活動内容の決め方》

- ・ 活動内容は当日参加者の皆さんが話し合っで決める
- ・ 活動内容が決まれば、活動達成のために必要な役割や準備、時間配分や手順などを決める
- ・ 参加者同士で協力していくつかのことに同時に取り組む

《活動内容の記録の仕方》

- ・ 必ず書いて残す一ホワイトボードと横道紙の両方を使い分ける
- ・ 1日の活動を個人ノートにも記入する
- ・ 写真、ビデオなどを多く残す
- ・ 買い物がある時は金銭管理はしてもらい、簡単な出納簿をつける

《スタッフの関わり方》

- ・ 手がかりときっかけ作りに徹する
- ・ どんなことでも、極力参加者に任せる
- ・ 関わり方の引き際を見極め、境界線はスタッフが引く
- ・ 自主的な活動を邪魔しない

書くこと・買い物と出納簿

横道紙に書いたことを自分のノートに写します

買い物の様子

出納簿

参加者が決めた具体的な活動内容

- ・ 制作活動
手芸・木工活動・調理活動など
- ・ 知的活動
- ・ 身体活動
運動・外出・畑作業など

活動項目数100種類以上

標の製作

お菓子作り


参加者が決めた具体的な活動内容

【社会参加】

- ・新潟中越地震への義援金集めバザー
- ・清掃活動 駅周辺
- ・空き缶拾い
- ・講演会へ出席
 - ・自分たちの病気について確かめ
- ・古切手回収
- ・市内作品展出品
- ・市の観光案内所での問い合わせ
- ・外出先等の情報収集のための照会
- ・取材・見学者の受け入れ、対応
- ・挨拶文とお礼状の準備から発送まで
- ・年末大掃除・迎春準備(クリニック全体)
- ・部屋の模様替え
- ・1、2ユニットとの交流など他

「誰かのお役に立ち、自分たちにはできることは何なのか?と話し合いました。」

「クリニック全体で古切手の回収にも取り組んでいます。」



参加者が決めた具体的な活動内容

【テーマ 病気について】

- ・アルツハイマーについて
- ・治療方法はあるのか
- ・病気を知りたい
- ・もの忘れをなくするための工夫
- ・日頃から気をつけることは何か
- ・病気をもう、あきらめたか?

【テーマ カフェに求めること】


- ・自分たちがここに集っている意味
- ・何を求めてここに来ているのか
- ・スタッフに求めること

【テーマ 振り返りとこれからのこと】

- ・一年間を振り返って
- ・新年を迎えて
- ・新年度からやりたいこと
- ・これから先のこと
- ・これからやりたいこと
- ・これだけは言いたいこと 他

「前向きに自分たちの病気について話します。」

「病気になったことはあきらめるけれど、病気になってからのことはあきらめない!」



エピソード 畑

畑の下見

うね作り

植え付け

畑での昼食



エピソード 小旅行

くまのぼたん

昼食

観光風景



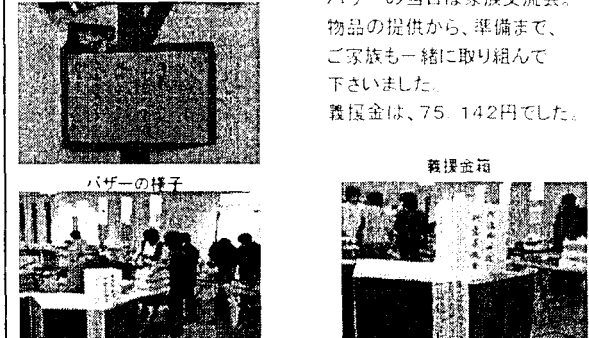
エピソード 新潟県中越地震義援金バザー

バザーのポスター

バザーの様子

義援金箱

バザーの当日は家族交流会。物品の提供から、準備まで、ご家族も一緒に取り組んで下さいました。義援金は、75,142円でした。



エピソード 清掃活動

カフェからの呼びかけで他のユニットからも参加します。

最後はゴミの分別まで責任を持って行います。



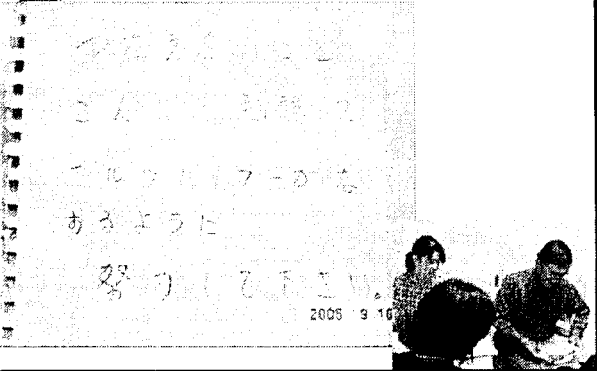
エピソード ユニット間交流

腕を組んで琵琶湖就航の歌をうたいます。手を組み、肩を組み仲間だと実感します。



年齢も病気の程度も関係ありません。一緒にうたいます。病気でつながる仲間なのです。

伝えたいこと



もの忘れカフェの2年目の活動

書くことは絶対忘れません



古い物風景 出納簿も残っています



模造紙の整理



百切手の整理



もの忘れカフェの2年目の活動

定期的に取り組む清掃活動、他のユニットからも大勢参加します



誰かの役に立ちたい、ぞうさんと折り鶴を老人ホームへ届けに行きました



伝えたいこと

仲間と共に



ここに仲間はいる そのことだけは確かや
仲間こそ励まされる
一人じゃないと言ってくれるから

秋の小旅行 大原三千院



クリスマスプレゼントを配りました



3) 呆け老人をかかえる家族の会奨励賞

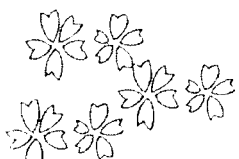
「介護家族の交流・研修と認知症の理解を地域に広めるための発信」
 阿倍野介護家族の会・えがおの会(大阪府大阪市阿倍野区)
 代表 横尾 禮子

[入賞理由]

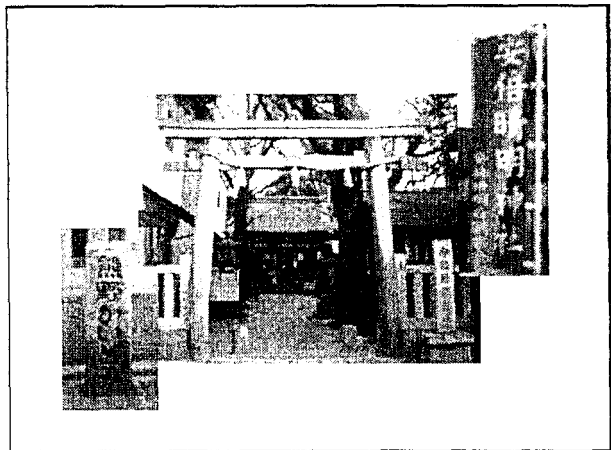
多様な人々が集まり介護家族を支える生き活きとした活動が展開されている。演劇を通じた啓発活動、会報を通じた相互情報交換、認知症予防に向けた取り組みなど、活動が多彩であるだけでなくひとつひとつの活動内容がユニークなアイデアであふれている。継続的な地道な活動が地域の多くの家族の支えとなっており、それらをまとめあげ、発展させ続けている取り組みは重要である。

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005

阿倍野介護家族の会
「えがおの会」




代表 横尾 禮子



昭和63年発足

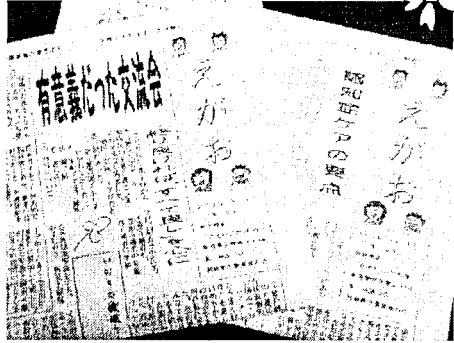
月1回の交流会

癒しの時間

交流会の重要性 

- 守秘義務を堅く守るので安心して要介護者の状態や困惑を話せる。
- 話すことで気分が落ち着く。
- すでに経験した会員が適切な助言をする場合がある。
- 自分は大変一もつと大変な人がいる
- 心のよりどころとなる仲間

会報「えがお」年10回発行



会報を通じて



- ◆介護日記への投稿
- ◆誰でも、いつでも投稿できる
- ◆多くの人に書いてもらえるように
- ◆無記名
- ◆俳句投稿 記名
- ◆カットの募集 要介護者からの投稿も
- ◆投稿が癒しとなる
- ◆特養、デイサービスなどにも配布

介護劇
認知症はどんな病気？

荷造り名人
拾井好さん

徘徊名人
里家えりさん

地域のグループと
協働で介護劇を

お医者さん役も
地域の人

あべの愛♡博覧会に参加

家族会に入ると

活動紹介

介護する人される人
全人全生 互人互尊
苦しむすっきりストレス解消

阿倍野介護家族の会
えがおの会

えがおの会

- ◆どこまで続くか、長い道のり。
旅は道づれ、共に歩こう。
- ◆自分は今苦しい。
でも、それにもかかわらず、
相手に対する思いやりとして
「えがお」を見せる。

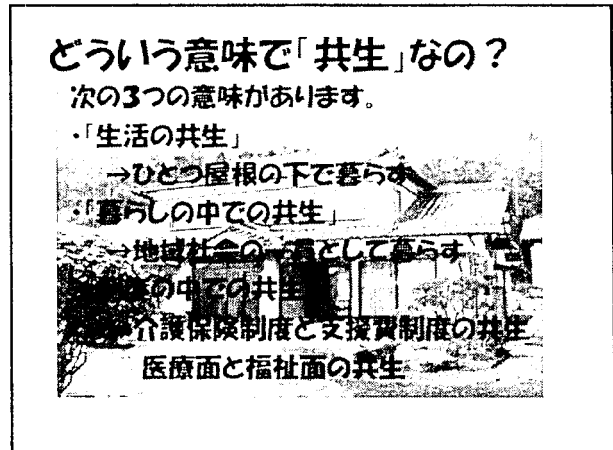
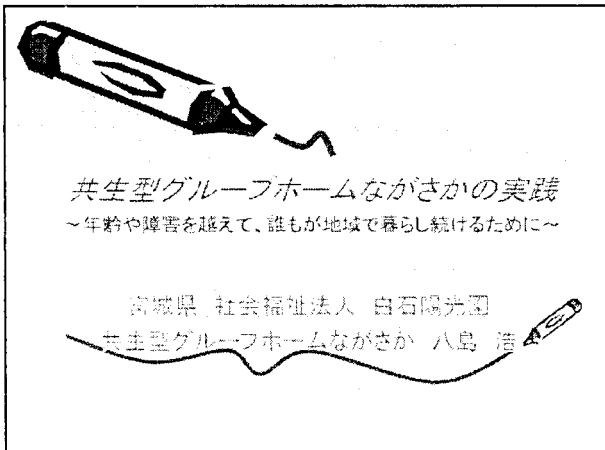
4)住友生命保険相互会社奨励賞

「共生型グループホームながさかの実践～年齢や障害を越えて、誰もが地域で暮らし続けるために～」
 社会福祉法人白石陽光園(宮城県白石市)

八島浩

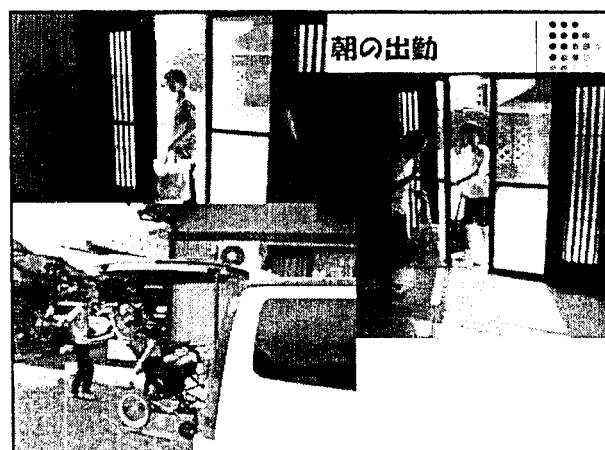
[入賞理由]

官民一体となって認知症の人と障害をもつ人々が共に暮らす支援を地域ぐるみで展開し、多くの成果を生んでいる。その活動の根底にはノーマリゼーションの理念がしっかりとあり、今後各地で重要となる共生の町づくりの普及進展に貢献するモデルである。



現在の利用者さん

| | 性別 | 年齢 | 備考 |
|---|----|----|--------------------|
| A | 女性 | 37 | 重症心身障害 通所更生施設 |
| B | 女性 | 44 | 重度知的障害 施設作業手伝い |
| C | 女性 | 56 | 中度知的障害 施設作業手伝い |
| D | 女性 | 64 | 重度知的障害 職場実習 |
| E | 男性 | 73 | 要介護度1 脳血管性痴呆 |
| F | 女性 | 71 | 要介護度1 混合性痴呆 |
| G | 女性 | 77 | 要介護度1 脳血管性痴呆 |
| H | 女性 | 85 | 要介護度2 老人性痴呆 |
| I | 女性 | 80 | 要介護度3 脳血管性痴呆 |
| J | 女性 | 89 | 要介護度3→4 アルツハイマー型痴呆 |
| K | 男性 | 78 | 要介護度4→3 アルツハイマー型痴呆 |
| M | 女性 | 68 | 要介護度5→4 アルツハイマー型痴呆 |







生活から見えてきたこと

・世代間の交流がある

お年寄りのみなさんは、朝、障害のある方を送り出し、夕方、迎えるという家庭内での「父母」や「祖父母」の「役割」を得ています。

この役割が、「張り合い」になり、認知症に対しても良い効果をもたらしているものと考えます。



まとめ

共生型グループホームの暮らしは決して「特別なこと」ではありません。

むしろ、このように家庭的な雰囲気の中で、地域生活を続けていくことこそが、「あたりまえの生活」なのではないかと思っています。

